

教科・科目	公民・倫理	単位数	2(前期)		
		ライン	4	開講時期	前期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己を確立することができる。
使用教科書・副教材等	高等学校 改訂版 倫理(第一学習社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	観察 レポート	35%
b. 思考・判断・表現	人間の価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	レポート 試験	15%
c. 資料活用の技能	青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、自己の確立に資するように活用している。	レポート 試験	15%
d. 知識・理解	青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、自己の確立の課題につなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。	レポート 試験	35%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
			a	b	c	d
前期	① 青年期の課題と自己形成 ギリシャの思想	青年期の課題やギリシャの思想について関心を高め、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	○			
	② キリスト教・イスラーム・仏教 中国の思想	世界の宗教について多面的・多角的に考察し探究しようとするとともに、その過程や結果を適切に表現できる。		○		
	③ 日本の思想①	外来思想の受容や日本人の庶民思想の特質に関わる基本的な事柄を理解することができる。				○
	④	この回は実施されません				
	⑤ 日本の思想②	日本の近代思想について関心を高め、世界に生きる日本人としての自覚を深めようとする。	○			
	⑥ 現代に生きる人間の倫理①	近代～現代の思想に関わる基本的な事柄を理解することができる。				○
	⑦ 現代に生きる人間の倫理② 現代の諸課題と倫理	現代の倫理課題に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、効果的に活用できる。			○	
後期	⑧					
	⑨					
	⑩					
	⑪					
	⑫					
	⑬					
	⑭					

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリングの回数には含めることができない。
レポート	前1回～前6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回に合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録				
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格		日S	月S	火S	木S	
前期	① 青年期の課題と自己形成 ギリシャの思想	前1	1 3	2 4	4/23	-	4/25	4/20	
	② キリスト教・イスラーム・仏教 中国の思想	前2	1 3	2 4	5/14	-	5/16	5/11	
	③ 日本の思想①	前3	1 3	2 4	5/28	-	5/30	5/25	
	④	この回は実施されません							
	⑤ 日本の思想②	前4	1 3	2 4	6/25	-	6/27	6/22	
	⑥ 現代に生きる人間の倫理①	前5	1 3	2 4	7/9	-	7/11	7/6	
	⑦ 現代に生きる人間の倫理② 現代の諸課題と倫理	前6	1 3	2 4	7/23	-	7/25	7/20	
	試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/20	-	8/22	8/17
後期	⑧								
	⑨								
	⑩								
	⑪								
	⑫								
	⑬								
	⑭								
	試験								

【先生からのメッセージ】

私たちが生きている社会には多くの課題があります。これらの課題を解決する際に助けになるのが、先哲の思想です。彼らも、私たちが直面しているのと同じような問題に遭遇し、それぞれの時代の中で考えてきました。思想は決して完全な解ではありませんが、人生や社会の導きとなってくれます。よりよい生き方をするために、基本的な知識を身に付けていくために、できるだけ毎回のスクーリングに出席し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。

教科・科目	公民・政治・経済	単位数	2(後期)		
		ライン	4	開講時期	後期

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察することができる。
使用教科書・副教材等	政治・経済(東京書籍)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	観察 レポート	35%
b. 思考・判断・表現	現代の政治、経済に関わる事柄から課題を見だし、望ましい解決の在り方について多面的・多角的に考察し、様々な立場を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	レポート 試験	15%
c. 資料活用の技能	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	レポート 試験	15%
d. 知識・理解	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。	レポート 試験	35%

3 学習計画

スクーリング回数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
			a	b	c	d	
前期	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
後期	⑧	民主政治の基本原則 日本国憲法の基本原則	民主政治や日本国憲法の基本原則について、基本的な事柄や概念、理論を理解することができる。				○
	⑨	日本の政治機構 現代政治の特質と課題	日本の政治機構と現代政治の課題に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。	○			
	⑩	現代の国際政治	現代の国際政治の特質と課題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。		○		
	⑪	この回は実施されません					
	⑫	現代経済のしくみ	現代経済のしくみと日本経済の現状について、基本的な事柄や概念、理論を理解することができる。				○
	⑬	福祉社会と日本経済の課題 国民経済と国際経済	日本経済の課題やグローバル化する世界経済の課題に対する関心を高め、意欲的に追究しようとする。	○			
	⑭	現代社会の諸課題	現代社会の諸課題に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、効果的に活用できる。			○	

4 単位修得の条件(次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件のすべてを満たすことが必要。)

スクーリング	2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリングの回数には含めることができない。
レポート	後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	後期1回に合格すること。	

○ 学習の記録		担当の先生	先生		登録					
スクーリング回数	学 習 内 容	レポート				スクーリング実施日				
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
	⑦									
	試験									
後期	⑧	民主政治の基本原理 日本国憲法の基本原理	後1	1 3	2 4	10/8	-	10/10	10/5	
	⑨	日本の政治機構 現代政治の特質と課題	後2	1 3	2 4	10/22	-	10/24	10/19	
	⑩	現代の国際政治	後3	1 3	2 4	11/5	-	11/7	11/9	
	⑪	この回は実施されません								
	⑫	現代経済のしくみ	後4	1 3	2 4	12/3	-	12/5	11/30	
	⑬	福祉社会と日本経済の課題 国民経済と国際経済	後5	1 3	2 4	12/17	-	12/19	12/14	
	⑭	現代社会の諸課題	後6	1 3	2 4	1/7	-	1/9	1/4	
	試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/21	-	1/23	1/18	

【先生からのメッセージ】

政治や経済に関するさまざまな問題について知識をもち、判断力を養うことは、将来、自立した市民になる上で不可欠です。現代社会がはらむ問題点や課題を意識しながら、主体的に学ぶ視点をもつようにしてください。そのために、できるだけ毎回のスクーリングに出席し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。